

平成22年度 全国学力・学習状況調査結果について

平成22年11月
長野市教育委員会

1 趣 旨

平成22年度全国学力・学習状況調査が7月末に返却されましたので、本市の児童・生徒の学力や学習習慣、生活習慣等に関わる状況について調査結果の概要を取りまとめました。

本市では、調査結果をもとに教師の指導改善や学校の教育課程改善を図ることで、児童生徒への基礎学力の保障を図ることを第一と考えており、調査結果の数値は、指導した教師が自己の指導を振り返るためと、児童生徒一人一人が学習改善につなげるためのみに活用しております。

また、本年度の結果は、抽出された学校の結果をまとめたものであるため、本調査の概要については、全国や県の結果との比較については行わず、文章表現で教科における課題を中心に公表することとしました。

なお本市では、児童・生徒にどのような学力が定着し、どのような課題があるのかを把握し、「基礎学力の保障」を図るため、長野市小中学校基礎学力調査事業を推進しております。

2 調査対象学年，調査問題，実施学校数，児童生徒数及び調査実施日

	対象学年等	調査問題	長野市の状況		実施日
			抽出校 / 全学校	実施児童生徒数 / 対象児童生徒数	
小学校	小学校 第6学年	国語 A・B, 算数 A・B 児童質問紙	12校 / 56校	746人 / 3615人	平成22年 4月20日(火)
	学 校	学校質問紙	12校 / 56校		平成22年4月20日 までに実施
中学校	中学校 第3学年	国語 A・B, 数学 A・B 生徒質問紙	8校 / 25校	1026人 / 3376人	平成22年 4月20日(火)
	学 校	学校質問紙	8校 / 25校		平成22年4月20日 までに実施

抽出校以外の学校は、希望利用とし、各学校の実態に合わせて全国学力学習調査の問題を活用しました。

3 調査実施内容

小学校6年 中学校3年	<教科に関する調査> 主として「知識」に関する問題(国語A, 算数・数学A) 主として「活用」に関する問題(国語B, 算数・数学B)	学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する調査(児童生徒質問紙調査)
学 校	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査(学校質問紙調査)	

4 留意事項

- (1) 教科に関する調査については、調査科目が、国語、算数・数学の2教科のみであることから、学習指導要領に示された身につけるべき学力の全体を網羅しているわけではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の一部であるということに留意する必要があります。また、質問紙調査については、質問項目に関する児童生徒や学校の実態の傾向を示したものであり、改善に向けては個々に対応することが大事であることに留意する必要があります。

(2) 本概要は文部科学省が提供する次の資料と関連づけて活用してください。

「平成 22 年度全国学力・学習状況調査 調査結果について」

ホームページアドレス <http://www.nier.go.jp/10chousakekka/index.htm>

「平成 22 年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」

ホームページアドレス <http://www.nier.go.jp/10chousa/10chousa.htm>

5 調査結果から明らかになったこと

(1) 児童生徒の学力に関する調査結果 (問題別の概要)

長野市の児童生徒が、今回出題されている問題について、どのような力が定着していてどのような力に課題があるのかを把握するために、以下の観点で調査問題及び学年別に概要をまとめました。

< 定着が見られるよい点 課題が見られる点 >

【小学校 6 年生】

学 力 の 状 況	
国語 A	漢字を正しく読んだり書いたりする力や、国語辞書を利用して、複数の言葉の意味の中から適切な言葉を選択する力は定着しています。 説明的な文章の内容を的確に押さえながら読むことに課題があります。
国語 B	目的や意図に応じて、読み手が評価した内容を整理し、表現の効果などについて確かめたり工夫したりする力は、定着しています 目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明することに課題があります。 物語を読んで思ったことや考えたことを、理由を明確にしてまとめて書くことに課題があります。
算数 A	計算をする力や分数で表わす力、折れ線グラフの読み取りの力は定着しています。 割合が【比較量÷基準量】で求められること、それを小数や百分率を表すことに課題があります。 商が 1 より小さくなる等分除の場面で除法が用いられることを理解することに課題があります。
算数 B	与えられた条件や図形の定義、性質を基に、事象から見いだした図形を判断し、その理由を選択できる力は定着しています。 平面上にかかれた立体図形や平面図形、与えられた条件を基に長方形の大きさを考え、それを辺の長さと言葉を用いて記述することに課題があります 割合の考えを基に、数の大小を判断し、その理由を数学的に表現することに課題があります。

【中学校 3 年生】

国語 A	部首の意味や、行書の特徴、目的に応じた文字の大きさや配列・配置の書き方については定着しています。 書いた文章を読みやすく分かりやすい文章にすることに課題があります。
国語 B	資料の特徴をとらえ、収集した情報を資料の形式に合わせて適切に加工し、効果的に活用する力は定着しています。 記事文における表現の仕方をとらえたり、書かれている内容をもとに、自分の考えを書いたりすることに課題があります。

数学 A	<p>計算する力や線対称な図形の対称軸について理解する力，言葉で示された図形の性質や条件を記号を用いて表す力は定着しています。</p> <p>円柱の体積の求め方を理解し体積を求めることに課題があります。</p> <p>一次関数の式から変化の割合を求めること，変化の割合の意味を理解していることに課題があります。</p>
数学 B	<p>事象を図形に着目して観察し，その特徴を的確にとらえる力は定着しています。</p> <p>事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することができることに課題があります。</p> <p>筋道立てて考え，事柄が一般的に成り立つ理由を説明することに課題があります。</p>

(2) 質問紙調査結果

児童生徒質問紙調査の結果【特徴的な質問に対する結果】

小学 校 6 年	<p>家で学校の宿題をしている児童の割合が高く，ほとんどの児童が家庭学習で宿題をしていることがうかがわれます。</p> <p>家で学校の予習や苦手な教科の学習は，あまりしていないと答えた児童の割合が高く，自主的な家庭学習のあり方について，考えていく必要があります。</p> <p>携帯電話で通話やメールをしている割合は，全国より低いのですが，携帯電話を使用している児童が，使い方について家の人と約束をしたことを守っている割合が全国に比べて低く，携帯電話の使い方について指導をしていく必要があります。</p>
中 学 校 3 年	<p>「人の役に立つ人間になりたいと思う」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」と答えた生徒の割合が高く，相手意識をもっている生徒が多いことがうかがわれます。</p> <p>「家で学校の授業の予習をしている」「家では，自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた生徒の割合が，やや低く，家庭学習のあり方について考えていく必要があります。</p> <p>携帯電話については，小学校6年と同様の結果であり，指導をしていく必要があります。</p>

学校質問紙の結果

小学 校	<p>児童，生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めていると答えた学校が多く，子どもが主体な授業がよく行われていることがうかがわれます。</p> <p>「教員が，他校や外部の研究機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている」と答えた学校の割合が全国に比べて高く，教職員の研修が充実していることがうかがわれます。</p> <p>「保育園や幼稚園との連携を行っている」と答えた割合」やや低く，今後の幼保小の連携のあり方について考えていく必要があります。</p> <p>校長が週に2～3日程度授業を見て回る学校の割合はやや低く，各学校で向上を図る取組が求められます。</p>
中 学 校	<p>すべての抽出校で「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けており，読書を教育の大切な柱の一つに位置付けている学校が多いことがうかがわれます。</p> <p>「生徒の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をしている」と答えた学校が多く，生徒主体の授業を行おうと努力している学校が多いことがうかがわれます。</p> <p>放課後や長期休業などを利用した補充的な学習サポートをした学校が少なく，今後のあり方について考えていく必要があります。</p>